

中城御殿跡地整備検討委員会(第2回) 議事要旨

日時：2021年12月24日(金) 10:00～12:00

場所：沖縄県市町村自治会館 2階 大会議室

第2回委員会では、中城御殿跡地整備基本計画改定に向けた見直し(案)について議論した。

1. 計画改定の基本的な考え方について

- 本施設が登録博物館をめざすこと、実物資料の展示・収蔵の考え方(案)、防災・防火対策の方針(案)等については了承。
- 登録博物館としての運用をめざす際には、首里城、中城御殿、県立博物館の展示の住み分けを明確にする必要がある。
- 防火・防災対策について、防災設備等の設置を検討する際は、意匠を損なわないよう配慮する必要がある。

2. 全体計画の見直しについて

- 特別展示エリア等における増床(案)、必要機能や配置計画(案)、施設内の動線計画(案)については了承。

■特別展示エリア等の増床について

- 増床はやむを得ないが、屋根のつながりの美しさが中城御殿の特徴であるため、景観上の留意事項として往時の屋根より突出しないことが重要である。上之御殿エリアからは西側増床が見えてくるため、意匠の工夫や検討が必要である。

■中城御殿の必要機能や配置計画(案)について

- 必要機能や配置計画は、現行計画策定時から議論してきたことと、今回の新たな配慮事項の検討を踏まえた結果としてよくまとまっている。
- 収蔵環境に配慮したゾーニングとして、管理区域と一般利用区域を明確に分けたことは評価できる。
- 地域意見も反映され良い方向でまとめられている。表御殿西側エリアにおいても、中城御殿にふさわしい意匠にしてほしい。

■動線計画(案)について

- 動線計画案は、中御庭に向かってシークエンスが変化し、期待感の高まる効果があり、よい案である。今後中御庭の神聖さを確保しながらの検討などが必要である。
- 副門前は、ヒンプン(※副門があった箇所に現在も残されている石垣)があり避難路としては狭いのではないかと。副門一帯の整備についても文化財の復元整備としての検討を進める必要がある。

■上之御殿エリアへのバリアフリーについて

- 上之御殿エリアへ上がるスロープ案は、景観を阻害する懸念があるため改善案の検討が必要である。
- 公園利用（バリアフリー）と文化財保護の両立が課題となる。景観性や遺構保護の観点から公園、文化財の関係課と調整すべきである。
- 全てをバリアフリー化するのは難しい。識名園の例のようにバリアフリーの対応・非対応を区分したり、総合案内や展示で補う方がよいと考える。
- 上之御殿エリアまでバリアフリー化することは難しい。別の場所に視点場を設け、上之御殿エリアに登らなくても全体が見えるような工夫をしていただきたい。

■上之御殿エリアの整備について

- 上之御殿と北側市道の境界は土が崩れており早めの対応が必要である。石牆で全周を囲むのはふさわしくないと思うが、方針をしっかりと決めたほうがよい。
- 上之御殿の北側には石積の跡がある程度残っており、発掘情報と合わせると二段構えになっていると思われる。新たに検出された石牆は、石牆というより擁壁ではないか。不明部分は発掘調査して構造を確認し、整備すべきではないか。

■管理運営体制

- 国の方針でも収蔵庫や修理・メンテ室で行う業務は、保存担当の学芸員を1人配置することが望ましいとされているため、配置を検討してほしい。

以上